京都 大佛師 松本明慶工房 仏像彫刻展



不動明王（参考作品）



如意輪観音
（21cm）



復興観音（参考作品）

■十一月十一日（水）～十六日（月）

■うすい百貨店十階　催事場
※午前十時～午後六時三十分
入場は各日閉場三十分前まで
※最終日は午後五時閉場

■入場料　一般　五〇〇円
※中学生以下無料

■うすいカード会員様特典
ダイヤモンドカード、うすい
Jカード、友の会カード一枚
につき一名様無料

期間中、松本明慶工房のスタッフが常勤し、展示品のほか、特別注文も承ります。
個人様、寺院様の古い仏像の修理、修復のお見積もりやご相談を無料にて承ります。
お気軽にお声かけください。

デイトもうすい 夢のデパート
USUI うすい百貨店
〒963-8004 福島県郡山市中町13番1号
TEL.024-932-0001(大代表)
https://www.usui-dept.co.jp
営業時間/午前10時～午後7時

沈香の仏

木の幹が傷ついたときに分泌される樹脂が、長い年月をかけて層をつくり、
長時間かけて香木の状態になったものを「沈香」といい、ほのかに高貴な香りのする貴重な物です。
香木でつくられた彫刻は、家内安全を招くとも言われています。



聖観音菩薩
（沈香／プラチナ截金／2寸6分／総高10.2cm）



阿弥陀如来
（沈香／プラチナ截金／座1寸4分／総高11.5cm）

沈香木製 一本彫



希少な香木、沈香で作られた芸術品としての仏像彫刻

沈香とは、東南アジアの特定の地域に生息するジンチョウゲ科常緑樹で、代表的な香木の一つ。外的要因で傷が生じると、傷を修復するために樹液が分泌され樹脂化するのでですが、100年以上といわれる長い年月をかけその樹脂の成分が変質し、特有の香りを放つようになったものが沈香と呼ばれます。
非常に希少性が高いため価格は高騰し、現在では入手困難な香木です。
仏像と岩となる台座は同じ沈香から彫られている一本彫の作品。ヤスリを一切使わず、刃物だけで彫られた造形が美しい作品です。

プラチナ箔の截金細工

仏像荘厳の最も緻密な彩色技法である截金。
金箔よりも硬く扱いの難しいプラチナ箔を竹刀（ちくとう）で僅かな風にもたなびく程の細い糸状に切り出し、一本一本筆で貼り模様を表現していきます。
素朴な趣をもつ沈香と貴重なプラチナ箔の截金との組み合わせは、独特ながら格調高い雰囲気を作り出しています。
堂々たる威厳と品格が漂う唯一無二の仏像彫刻。沈香の香りとともに気品漂う空間が生まれます。

香合仏

香合とはお香を入れる器で、その内側に御仏が刻み込まれたもの。
生まれ年の干支に因んだ守護神や信仰している仏様など、
小さくて携帯に便利な香合仏はお守りとしてお持ちいただけます。



香合仏 普賢菩薩
（白檀／截金／直径6.0cm）



香合仏 大日如来
（白檀／截金／直径6.0cm）

子



香合仏 十一面千手観音菩薩
（白檀／直径6.0cm）

丑・寅



香合仏 虚空蔵菩薩
（白檀／直径6.0cm）

卯



香合仏 文殊菩薩
（白檀／直径6.0cm）

辰・巳



香合仏 普賢菩薩
（白檀／直径6.0cm）

午



香合仏 勢至菩薩
（白檀／直径6.0cm）

未・申



香合仏 大日如来
（白檀／直径6.0cm）

酉



香合仏 不動明王
（白檀／直径6.0cm）

戌・亥



香合仏 阿弥陀如来
（白檀／直径6.0cm）

京都 大佛師

松本明慶工房

ごあいさつ

このたび、うすい百貨店では、5年ぶりに京都の大佛師・明慶先生とその技を受け継ぐ二代・明観先生率いる工房による仏像彫刻展を開催いたします。

明慶一門が心血を注いで彫り上げた木仏は、やわらかな「ほほえみ」も、厳しく迫るまなざしも、それぞれに深い意味を宿し、仏と対話するような時間をもたらしてくれます。

本展では「対話のできるみほとけ」をテーマに、選び抜かれた作品の数々をご紹介いたします.

また、2024年大本山増上寺の開宗850年忌大会において徳川家康公像及び、厨子制作安置など、ますますのご活躍です。

ぜひ、この機会にご高覧賜りますよう、心よりご案内申し上げます。

大佛師 松本 明慶 略歴

1945年 京都市に出生
1962年 佛師を志し、仏像彫刻を始める
1964年 京佛師・野崎宗慶師に弟子入り
1979年 朝日新聞社・京都朝日会館にて個展を開催
1980年 京都伝統仏像彫刻会会員となる
1981年 京都仏像彫刻家協会展にて市長賞を受賞 以後、十数回受賞
1985年 京都仏像彫刻家協会展にて知事賞を受賞 以後、十数回受賞
1988年 フランス国立ギメ美術館(ルーブル美術館東洋別館)の仏像100体の修復を担当
1991年 「大佛師」の号を拝命
1999年 世界最大級の木造仏、大弁財天坐像完成(鹿児島県／最福寺)
2002年 真言宗高野山金剛峯寺に恵果阿闍梨尊像を奉納
2004年 西国三十三観音霊場三十二番札所、滋賀・観音正寺に総白檀による十一面千手観音坐像丈六大仏を納める
2005年 中越地震被災地・新潟山古志村に、復興地蔵九体を謹刻
京都に松本明慶仏像彫刻美術館を開館
2006年 四国八十八ヵ所霊場会の出開帳用ご本尊八十八体を納める
2008年 比叡山延暦寺無動寺谷明王堂に不動明王像を納仏
2011年 京都府文化賞[功労賞]を受賞
2013年 京都府文化功労賞を受賞
2014年 高野山開創1200年記念中門再興事業の四天王(修理2体・新造2体)を納仏
2015年 和歌山県文化功労賞を受賞
2018年 高野山別格本山清浄心院に不動明王像を納仏
2019年 京都仁和寺に阿弥陀如来像を納仏
2023年 滋賀石山寺に弥勒菩薩像を納仏
親子三代で石山寺より「大佛師」の号を拝命
2024年 東京増上寺に徳川家康像を納仏
親子三代で増上寺より「大佛師」の号を拝命



大佛師 松本 明観 略歴

1967年 京都市に出生
1986年 京都市銅駝美術工芸高等学校 彫刻科卒業
1987年 松本明慶工房に入門
2000年 「明観」の号を拝受
2001年 第40回京都仏像彫刻展にて、仏像彫刻家協会賞を受賞(以後、2023年迄に仏像彫刻家協会賞を計5回受賞)
2002年 西国三十三観音霊場・第二番札所 和歌山県・紀三井寺より「大佛師」の号を拝命
第25回京仏壇・京仏具技術コンクール展にて近畿経済産業局長賞を受賞
2003年 第26回京仏壇・京仏具技術コンクール展にて京都府知事賞を受賞
2004年 伝統工芸士認定
2010年 第49回京都仏像彫刻展にて中外日報賞を受賞(以後、2023年迄に中外日報賞を3回受賞)
2011年 第34回京仏壇・京仏具技術コンクール展にて京都市長賞を受賞
2014年 第37回京仏壇・京仏具技術コンクール展にて京都商工会議所会頭賞を受賞
2015年 第38回京仏壇・京仏具技術コンクール展にて京都府中小企業団体中央会会長賞を受賞
2018年 第57回京都仏像彫刻展にて2度目の京都府知事賞を受賞
2019年 第58回京都仏像彫刻展にて京都府仏具組合賞を受賞
京都仏像彫刻家協会会長に就任
2023年 西国三十三観音霊場・第十三番札所
滋賀県・石山寺より「大佛師」の号を拝命
TBS(毎日放送)「情熱大陸」に出演
2024年 東京都・大本山 増上寺に徳川家康公像を納める
東京都・大本山 増上寺より「大佛師」の号を拝命
2025年 奈良県・信貴山千手院に大日如来像を納める
千手院より「大佛師」の号を拝命



大佛師 三代 松本宗観



[截金彩色作業]
2本の筆を巧みに使い、細い金箔を貼っていく





仏教各宗派のための仏像



[真言宗] 大日如来
(桧/漆彩色/座3寸/総高25.5cm)



[臨済宗・曹洞宗] 釈迦如来
(白檀/截金/座2寸5分/総高26.0cm)



[日蓮宗] 日蓮聖人
(桧/漆彩色/座2寸5分/総高14.5cm)



[浄土宗] 阿弥陀如来
(桧/5寸/総高30.0cm)

	宗祖	本山	本尊	教えの特徴
真言宗	空海	金剛峯寺	大日如来	大日如来と一体化する修行を行い、身このままで成仏を究極の目的とする。
曹洞宗	道元	永平寺 總持寺	釈迦如来	何も目的ももたずにひたすら坐ること(只管打坐)を重んじ、そのまま坐禅が悟りになると説く。
臨済宗	栄西	建長寺 妙心寺ほか	釈迦如来	坐禅をしつつ公案という禅問答を行ない、悟りに近づこうする。
日蓮宗	日蓮	久遠寺	釈迦如来	『法華経』こそが真理であり「南無妙法蓮華経」の題目を唱えることによって誰でも救われると説く。
浄土宗	法然	知恩院	阿弥陀如来	「南無阿弥陀仏」という念仏をひたすら称えれば、誰でも極楽浄土に往生できると説く。
浄土真宗	親鸞	西本願寺 東本願寺ほか	阿弥陀如来	自力を否定し、阿弥陀如来の本願力を信じること(本願他力)で救われると説く。
天台宗	最澄	延暦寺	釈迦如来 阿弥陀如来	天台の数字に密教、禅、戒律を融合させた総合仏教、『法華経』の思想を中心としている。